

Nihongo Network News

1999.6.7発行

No. 21

TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークは、ボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワーク（連絡協議会）として、情報交換や活動の活性化を図ることを目的に、1993年12月に結成されました。TNVNの会員はそれぞれの地域で日本語教室活動を通じて、言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援しています。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター気付 ☎03-3235-1171

TNVN 東京日本語 ボランティア・ネットワーク

第6回 総会が開催されました

'99年4月3日(土)午後2時より、東京ボランティア・市民活動センター会議室においてTNVNの第6回総会が開催。当日は出席者20名（その他、委任状によるもの35団体）により議事がすすめられ、新体制のもとに99年度の活動計画及び予算が確定しました。

まず、中田紀子代表の挨拶に引き続き、来賓として東京ボランティア・市民活動センター副所長の安藤雄太氏の挨拶、ついで議長に梶村氏を選出し、議事の討議に入りました。

最初に、1998年度の活動報告、会計報告、監査報告がなされました。会計報告では98年度が会計年度の変更に伴う処理のため15ヵ月分となったことが説明。監査報告のなかでは、予算との兼ね合いばかりでなく、積極的に活動し、その資金を賄うような手だてを講じては、という意見もありました。

次に、99年度新役員の選出が行われ、次のような新陣容となりました。

【代表】

中田紀子（多摩市国際交流センター）

【副代表】

外口光博（あきる野市日本語教室）

梶村勝利（としま日本語サークル）

【会計】

大久保澄子（弥生日本語の会）

山縣みつる（青山日本語クラブ）

【監査】

藤田義雄（OCNet）

【事務局長】

林川玲子（VIVA日本語教室）

その後、99年度の活動計画、予算案が提出され、承認を得ました。具体的な活動としては、日本語ボランティア入門講習会・ネットワーク情報交換会・運営委員会は従来通りのスケジュールで実施。ボランティア日本語教室ガイドは'97年度版の完全領布をめざし、あわせて99年度改訂版も作成することになりました。

ニュースレター『日本語ネットワークニュース』（偶数月に発行）は、幅広く編集委員としての参加を募り、編集会議を開催。より多くのスタッフの積極的な参加のもとに編集作業をすすめることになりました。また、運営資金の充足については、賛同金の減少という現実を踏まえ、なんらかの資金獲得プランの発案・実施が急務とされました。

最後に、事務局スタッフの紹介があって総会は終了し、その後は懇親会となり、なごやかに歓談の時間が過ぎました。（藤田義雄）



交 差 点

ネットワーク情報交換会レポート

第6回ネットワーク情報交換会
3月19日(金) 18:00より

日本語ボランティアは市民権を得ているか

今回の情報交換会はあえてテーマを決めずに、参加者からテーマを募ってみました。そこで、「日本語ボランティアが市民に理解を得ているのか」ということが話題となり、そこから展開して活発な意見交換の場となりました。

クラス内の出来事や、レベルの異なる学習者を同時に教える時の難しさ、教える立場の難しさなど、日本語ボランティアにたずさわっている方々が、共通の問題で頭を悩ませているというこ

とが、これによってわかりました。さまざまな意見や情報が寄せられたなかで、クラスの雰囲気作りが最重要であるという声が聞かれましたが、やはり、それが、一番と言えるようです。

また、今後の問題として、外国人高齢者対策の必要性や外国人児童の対策として、ますます、地域や学校とのかかわりが重要になるであろう、という近い将来の問題についても提議されました。

ネットワーク情報交換会への参加者

はまだ少ないですが、この会は多くの方々にとって、決して無駄にならない、良き発言の場であると思います。ボランティアはボランティア同士、共通の問題を解決、協力し合い、この会を通して、ボランティアの質の向上を目指して行く基盤となり得たら、どんなに良い会になるかと思っています。より多くの方の参加をお待ちしております。

第7回ネットワーク情報交換会
5月21日(金) 18:00より

魅力ある情報交換会にするには

今回は、昨年度の全6回にわたるネットワーク情報交換会をふりかえりながら、今後どのようなテーマで情報交換を行うか、ということについて話し合いを進めてみました。

昨年度のネットワーク情報交換会のテーマとしては、教室の運営面に関するものが多かったのですが、その他にもさまざまな情報交換のテーマがありながらも、それを残したまま本年度に入ってしまった。そこで、より多くの日本語ボランティアの方々にとって、意味のある情報交換会にするにはどうしたらよいか、などという点についても、話し合いました。

そこで、情報交換会というものが一体どういうものなのか、まだよく把握

できない、という意見がありました。確かに、情報交換会というものの体質や出席してどれだけのメリットがあるかなどがわからないままでは、大変有意義な会であるにもかかわらず、足を運んではもらえないことになります。まして非会員の方々も出席できる会としては、あらゆる日本語ボランティアにとって得たい情報というものをテーマにしなければ何の価値もない会になってしまいます。そのような点について、出席者の方々から多くの意見や情報が活発に寄せられました。

そのなかで、まず「教え方」についての関心の高さが指摘されました。マン・ツー・マンでの教え方、グループ学習の仕方、また楽しく学習するにはど

うしたらよいか、興味の異なる学習者やレベルの違う学習者に対する対応など、さまざまな問題を皆がかかえているようです。さらに、「教え方」に絡んで、どのような教材を使ったらよいか、という声も聞かれました。他の団体で使ってみて良かった教材は何か、自主教材を作成して、使用している団体の情報が聞きたい、などです。

そこで、次回7月16日(金)のネットワーク情報交換会では、このような問題を拾って、「教材」をテーマに情報交換をしてみたいと思います。自主教材の作成や使い方についての事例紹介も予定していますので、関心のある方はぜひご参加ください。

(外口 光博)

ボランティア日本語教室での学習は、日本語学校と違って学習者のニーズもさまざま。そのため既存のテキストや教授法通りにはいかないことも多く、学習者に合わせた工夫も必要です。

ここでは、日本語学習者を支援するときに、

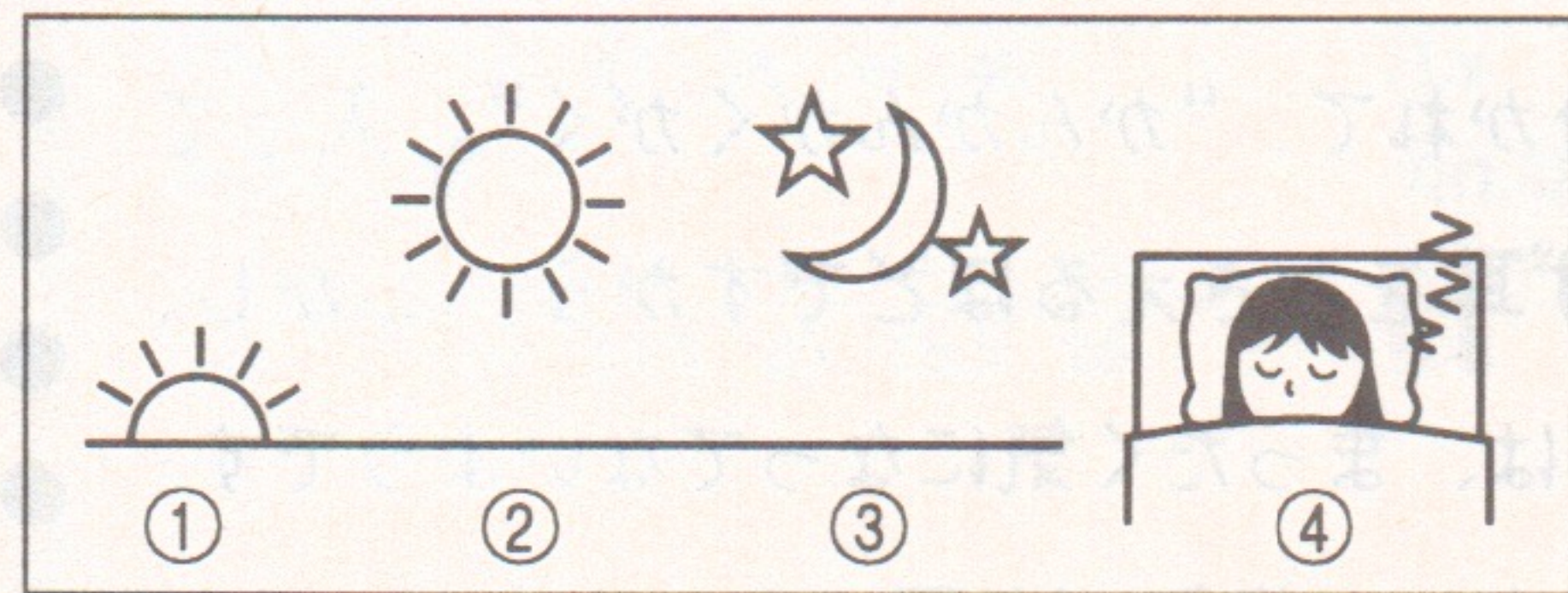
役立った教材、理解を早めたアイデア、上達を助けるコツなど、経験から生みだされた工夫やアイデアをご紹介します。学習のなかで効果をあげているボランティア日本語教室ならではのアイデアやヒントなど、皆さんの財産もぜひご提供ください。

学習に役立つ3つのヒント／ボランティアからの提案

日本語ともの会(北区) 山本 敬子

1. あいさつ

次のような簡単な絵を描いて、指で示した後で言うとうわかりやすいです。



- ①おじぎをしながら「おはようございます」
- ②おじぎをしながら「こんにちは」
- ③おじぎをしながら「こんばんは」
- ④おじぎをしながら「おやすみなさい」
- ⑤手を振りながら「さようなら」
(夜遅いときは「おやすみなさい」)
- ⑥おじぎをしながら「しつれいします」
(改まったときの入退室時と別れるときに言いますが、ドアをノックして開け閉めしながら練習すると効果的です)

2. 紹介(自己紹介→他者への紹介)

数人で順番に言いながら練習するとわかりやすいようです。

- ①「〇〇です」
 - ②「はじめまして、〇〇です」
 - ③「はじめまして、〇〇です。
よろしくおねがいします」
 - ④「はじめまして、〇〇です。
どうぞよろしくおねがいします」
- *長いフレーズは一度では言えません。そんな時は一番後ろから……
- 「します」
 - 「おねがいします」
 - 「よろしくおねがいします」
 - 「どうぞよろしくおねがいします」のよう

に練習すると効果的です。

- ⑤「あのう」または「すみません」
(呼びかけるときに使う言葉)
- ⑥「おなまえは？」
(知りたい人の目を見ながら聞く)
- ⑦「△△さんですか？」
(聞いた名前をくり返して確認する)
- ⑧「こちらは△△さんです」
(手のひらを上に向け、その人を他の人に紹介)

*お互いの名前を早く覚えるようにし、「あなた」ではなく「〇〇さん」「△△さん」と名前呼び合うようにします。忘れたときは何度でも「すみません、おなまえは？」と聞く練習をしながら覚えるようにします。

3. 知らない言葉を学ぶとき、早くできるようになるには

多くの学習者から言われることは「本や母国語の説明で、そのときは分かるけれど、自分の言いたいことが言えない。言っても自分が考えたようには伝わっていない(気がする)。相手の言ってることが分からない。分かりませんと言った後で、次に何と言えば分かるようになるのか、その聞き方が分からない」等。

もっともっと勉強して、繰り返し声に出して練習するしかないのでしょうか。そこで、質問する言い方を覚えてもらうと、お互いに楽しく学べるようになります。(なるべく早い時期に覚えて、使えるようになると思います)

- ①「これはなんですか」と聞かれ、何と言う

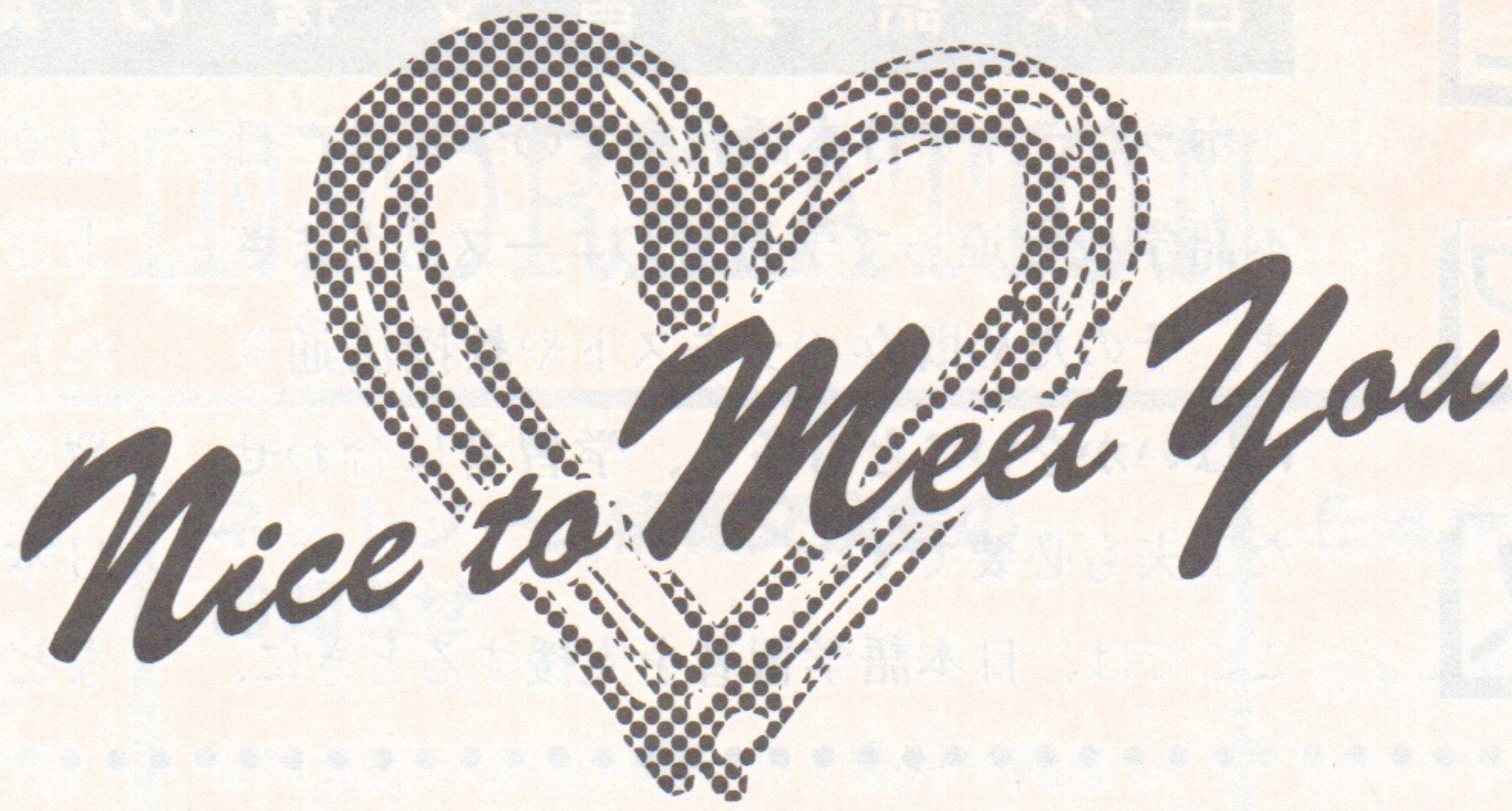
のかが分からないとき、「わかりません。(これは)なんですか」と鸚鵡返しに聞く。

- ②「〇〇は△△語でなんですか」
- ③「□□、書いてください」
〇〇——分からない単語、フレーズ、これ・それ・あれ、など
△△——日本語、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、タガログ語、など
□□——漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字、ABC、など

(例) V…ボランティア、L…学習者

- V 「みてください」
- L1 「『みてください』は、中国語でなんですか」
- V 「『みてください』は、中国語で『請看(チンカン)』です」
- V 「おすまいは？」
- L2 「『すまい』は、英語でなんですか」
- V 「『すまい』は、英語で「adress」です。
でも、「おすまいは？」の意味は「Where do you live?」です(フォローを忘れずに)」
- L1 「漢字、かいてください(漢字を指して)「ひらがな、かいてください」
- L2 「『What time is it now?』は、日本語でなんですか」
- V 「『いまなんじですか』です」
△△語が分からないときは、分かる人に聞きましょう。

でも、日本語の学習ですから、なるべく日本語で分かるように説明したり、絵や身ぶり手ぶりで示し、その言葉だけを直訳するのは避けた方がいいでしょう。



只今、満員！

あいうえお（大和市）

武 ゆり子

1993年10月から、市の文化会館を予約して活動を始めました。今では日本人9名外国人17名が活動しています。平日(金)午後1時半から3時ということで、ほとんどは主婦です。が、休みをもらって来ている男性もいます。

授業は1対1～3名で行い、日本語能力テストの対策も毎年しています。日本人ボランティアが増えないため、常に学習者は満員の状態です。ボランティア希望者はどうぞご連絡ください。条件は、1) 何らかの教授法を勉強した人、2) 毎週休まず来られる人(休みは年3回のみ)、3) 女性、4) 交通費・教科書代を自己負担できる人、です。もちろん無償ボランティアです。

どこからも助成金はもらわない方針ですから、学習者からの1回百円は大切に使います。コピー代、お茶代、クリスマスパーティー代等です。2ヶ月に1回は授業終了後、皆でティーパーティーをします。お菓子を食べながら各国語が飛び交い、更に友達の輪は広がっていきます。

そして最大のイベント、クリスマスパーティーが毎年12月の第三土曜日に開かれます。家族も参加できるので、40名位になります。日本人が料理を1人3品持ち寄り、それはそれは素晴らしいレストランができあがります。幸せな気分になったところで、冬休みです。

お正月明けは“坊主めぐり”をして、すぐ授業に入ります。春には能力テストの結果が届き、お祝いをします。新緑の頃には料理教室があります。こんな活動を続けています。

「あいうえお」は、さまざまな能力の持ち主がいろいろなサービスを提供しあって運営されています。お金はありませんが、良い授業と暖かい心はこのサークルにも負けないと思っています。

楽しみながらボランティアができるなんて、最高ではありませんか！

日本語が楽しい

話しましょう、日本語を（練馬区）

坂本 喜久子

教室のドアを開けたとたんに、皆さんびっくりなさるようです。ふたつの教室をひとつにつなげて、常時、60人から70人が15のグループに分かれて、“かんかんがくがく”。入って来られた方は、思わず耳をおさえるほどですから。しかし、勉強している当人たちは、まったく気になってないようです。時々、熱気で息苦しくなり、換気が必要になりますが、それでも短時間でやらないと、ママのお供で“学校”へ来ているチビさんたちが、おもしろそうだとばかりに集まってきます。

まったくの初級から、日本語能力試験1級の受験勉強のグループまでありますが、この教室ですっと勉強してきて1級をとり、教授法も勉強して日本語ゼロの同国人を教えている人たちもいます。続けて来ている人が多いのですが、赤ちゃんが生まれて5日目に来た人にはさすがに驚かされました。仕事が始められるようになって、火曜日だけ休みをもらって来る人もあれば、引越したあとも片道2時間かけて子ども二人を連れて来る人もいます。

みんながお互いにやさしく、小さい人たちがそばに来ると、危なくないように注意をはらっています。「子どものために、日本語が上手にならないと」とがんばっているお母さんたちの子どもたちが、真っ直ぐに、幸せにこの国で育っていけることを願って、ボランティアも年中無休でがんばっています。

と言っても、教室へ来るみんなの笑顔と、「この教室はオアシス」と言って教室を“卒業”

してからも私たちに会いに来てくれて「身体を大事にしてください」と言ってくれるみんなのやさしさが、私たちがこの教室から離れられないほんとうの理由なのかもしれません。



※20号に掲載の「やさしい日本語」(練馬区)の活動は、毎週水曜日です。訂正して、お詫びいたします。

一週間に一回の大切な時間

銭越華／中国（青山日本語クラブ）

1991年、私は日本人の配偶者として、中国の蘇州から日本へ来ました。もうすぐ8年になります。

日本へ来たら、第一の問題が日本語でした。日本語ができないと生活していくのが、とても不便です。そこで、日本語学校へ2ヵ月くらい通いましたが、その後、子育てと仕事で学校へ行けなくなりました。

でも、日本語を勉強したい、日本のことをもっと知りたいと、いつも思っていました。そんな時、偶然に新聞でボランティア日本語教室の記事を見ました。ボランティア日本語教室では一週間に一回、日本語の勉強ができて、経済的にも負担がかかりません。それで、私は青山日本語クラブへ行きました。

ここへ来たら、いろいろな国の人とみな友だちで、世界が目の前で広がっていきま

した。中国の人もいて、ふるさとへ帰ったようでした。先生たちは私にとって日本語の先生でもあるし、友だちでもあります。みんなとてもやさしいです。日本語だけでなく、日本の歴史、地理、習慣、風俗など、いろいろいっぱい教えてくれます。日本での生活問題についてもアドバイスしてくれます。いつもありがとうございます。

一週間に一回の日本語教室は、私にとってはとても大切な時間です。これからももっと日本語を勉強したいし、日本のこともたくさん知りたいです。

今は仕事が忙しく、なかなか行かれないのが残念ですが、また時間ができたら行きたいです。もっといろいろな曜日や時間にたくさん日本語教室があれば、自分の都合がいい時間に行くことができ便利だと思います。

日本語ボランティアの現場から

学習者から教えるボランティア

林川玲子（VIVA日本語教室）

日本語ボランティアとして外国の方々にかわっていると、こちらが支援しているつもりでも、教えてもらうことの方が多いような気がします。

コンゴから来た学習者のMさんは、大きい数を読むための練習で「コンゴの人口は？」と尋ねたとき、あまりに詳しい数字を答えたのでびっくりしましたが、お国の中学で地理を教えていたとのこと。背が高く、威厳のある顔立ちで、私のイメージのなかにあるアフリカの大草原の王のような方です。コンゴには200以上の種族がいて、それぞれ独自のことばを持ち、自分自身も親とは村の言葉で、兄弟とは学校で習った言葉で話し、他の種族の人とはまた別の共通語で通じ合うとのこと。住んでいる種族のことは考慮せずにヨーロッパの人たちが定規で国境線をひいてしまったため、種族間の戦争が起きること…など、など。かなり深刻なことを穏やかに話してくれました。

地雷のために失った両足の義足を作るた

めに日本に来たクルド人のFさんは、松葉杖をつきながら毎週クラスへ通って来ました。このFさんのおかげで、私はクルド人の住んでいる地域が5つの国に分割されてしまったことを初めて知りました。それ以来、ニュースでクルドと聞くと、無関心ではられません。

私が学校教育などで学んだ知識は、ほとんど欧米からの視点、価値観で見たもので、世界にはもっとたくさんの視点があることに気づかされました。偏見はもちろんのこと、思い込みが他国を見る目を曇らせていたと思いました。一切の先入観を捨てて子どものように素直に尋ねると、日本語があまり自由にならなくても、どの学習者の方も自分の国のことを一生懸命伝えようとしてくれました。話したいこととなると、不思議と日本語が出てくるのです。聞いている私は世界が広がるし、学習者は日本語でたくさん話せて満足しているし、これは一挙両得だと自画自賛しています。



有馬 俊子 先生

日本語教師 (株)スリーエーネットワーク 顧問

日本語を教えて半世紀の経験を 多くの人々に役立ててほしい

TNVNの活動も6年目を迎える今年、日本語ボランティア入門講習会も毎回多数の受講者でにぎわい、日本語ボランティアへの関心の高まりを感じさせます。

そこで今回は、日本語テキストの執筆者として、また日本語教授法講座の講師として活躍されている有馬俊子先生をお訪ねしてみました。有馬先生にはこれまでもTNVNの日本語ボランティア講習会の講師をお引き受けいただいているので、そのエネルギッシュな講義をご存知の方々も多いことと思います。

長年の日本語教師としての活動を 自伝的エッセーとして出版

これまでに『日本語の基礎』『日本語の教え方の秘訣』など数々の日本語テキストを出版されている有馬先生。この4月には、新たに『ふれあいは国境を越えて 留学生・研修生との半世紀の交流を語る』(発売元 凡人社 ¥1,000)という本を出版されました。これは、有馬先生の半世紀にわたる日本語教師としての活動やそのエピソードをまとめた自伝的エッセー集です。

先生は、この10年程の間、国内外の各地で実践的な日本語の教え方のセミナーで講師として活動。その際の質疑応答や懇親会などで受講者から多くの質問があるにもかかわらず、限られた時間内でなかなかすべてにお答えすることは難しかったそうです。そこで、必ず質問されるいくつかの事柄を中心に、これまでの日本語教師としての歩みをふりかえって書いたのがこのエッセーという訳です。

まだ日本語教育というジャンルが確立されていない時代にどうして日本語教師という道を選んだのか、長年の日本語教師の経験のなかで心に残るエピソード、仕事と家庭の両立の秘訣などが、その質問。日本語教育の現場ならではのエピソードが生き生きとしたタッチで綴られているエッセーは、ボランティア

日本語教室活動をしている私たちにとってもなるほどと思いつくものも多く、思わず一気に読みすすめてしまいました。

「これからは日本語の時代」と確信 未開拓の日本語教育を目指す

目黒の古美術商の一人娘として生まれた先生は、幼少の頃から茶道・香道・華道・日本舞踊・長唄などのお稽古事をして、家業を継ぐために必要な知識を習得。ところが、夢多き20歳を迎えた年に、真珠湾攻撃が始まりました。戦争末期の町角に貼られた「足らぬ足らぬは工夫が足らぬ」という標語は、その「工夫」の「工」の字が×で消され、男一人に嫁トラック一台分という実情だったとか。そこで先生は「どうせ戦争で死んでしまうなら、人並みに結婚という経験もしてみよう」と、縁談の相手と結婚。お相手は元薩摩藩士という旧家の子息でしたが、この結婚生活での経験が日本語教育の道を目指す動機のひとつになりました。

結婚生活は、嫁ぎ先での舅・小姑との大家族生活に加え、終戦後は空襲で焼けだされた親類・縁者との共同生活など、苦勞されたことも多かったようです。戦後とは言え、まだまだ女性が外で働くことが難しかった時代。しかし、ご主人の病気をきっかけに自ら働くことを考え、そのために英語学校へ通う許可を得ました。たとえ女性でも英語ができれば通訳・翻訳などの仕事につけ、舶来のチョコレートやタバコ、コーヒーなども手に入ることも当時の暮らしにとっては魅力だったのです。

その頃、日本人の売り手と外国人の買い手が言葉が通じないためにトラブルになっている闇市の光景から、これからは日本に暮らす外国人にとって日本語が必要な時代になる、と直感。嫁ぎ先での鹿児島

弁が通じずに人間関係までぎくしゃくしてしまったという経験も思いおこし、日本語を教えるという道を目指すことに決心されたそうです。

媒介語が使えないことの苦勞が 新たなテキスト誕生の原動力に

ところが、当時は外国人に日本語を教える学校も数えるほどで、ましてや教師を養成する機関もなかった時代。たまたま恩師の紹介で、東京外国語大学で非常勤講師として留学生に日本語を教える機会に恵まれました。留学生に日本文化を紹介する際には、先生の伝統文化の知識や人脈が大いに役立ったそうです。

やがて、昭和34年に通産省の外郭団体・海外技術者研修協会が設立されると、専任日本語講師として迎えられました。留学生と違って、研修生は母国語しか話せない人も多く、その社会的地位や年齢もさまざま。媒介語の英語での説明が通じなかった苦しさから描いた絵がヒントとなり、研修生向けの新しい教材開発につながりました。

このときに研修センターでプロジェクトを組んで作成されたのが『日本語の基礎 I・II』で、あわせて各国語の別冊・絵パネル・単語カード・カセットテープなども開発。来日する外国人が増え、媒介語が使えないケースが増加するにつれて、この教材は広く使用されるようになりました。その後、改訂が加えられ、現在の『新日本語の基礎』は国内外で使用される教科書の80%というシェアを占めるようになったそうで、この教材の開発がご自身の半生で「最も苦勞したこと」と有馬先生はふりかえります。

教授法を伝えることで 外国人の幸せに寄与したい

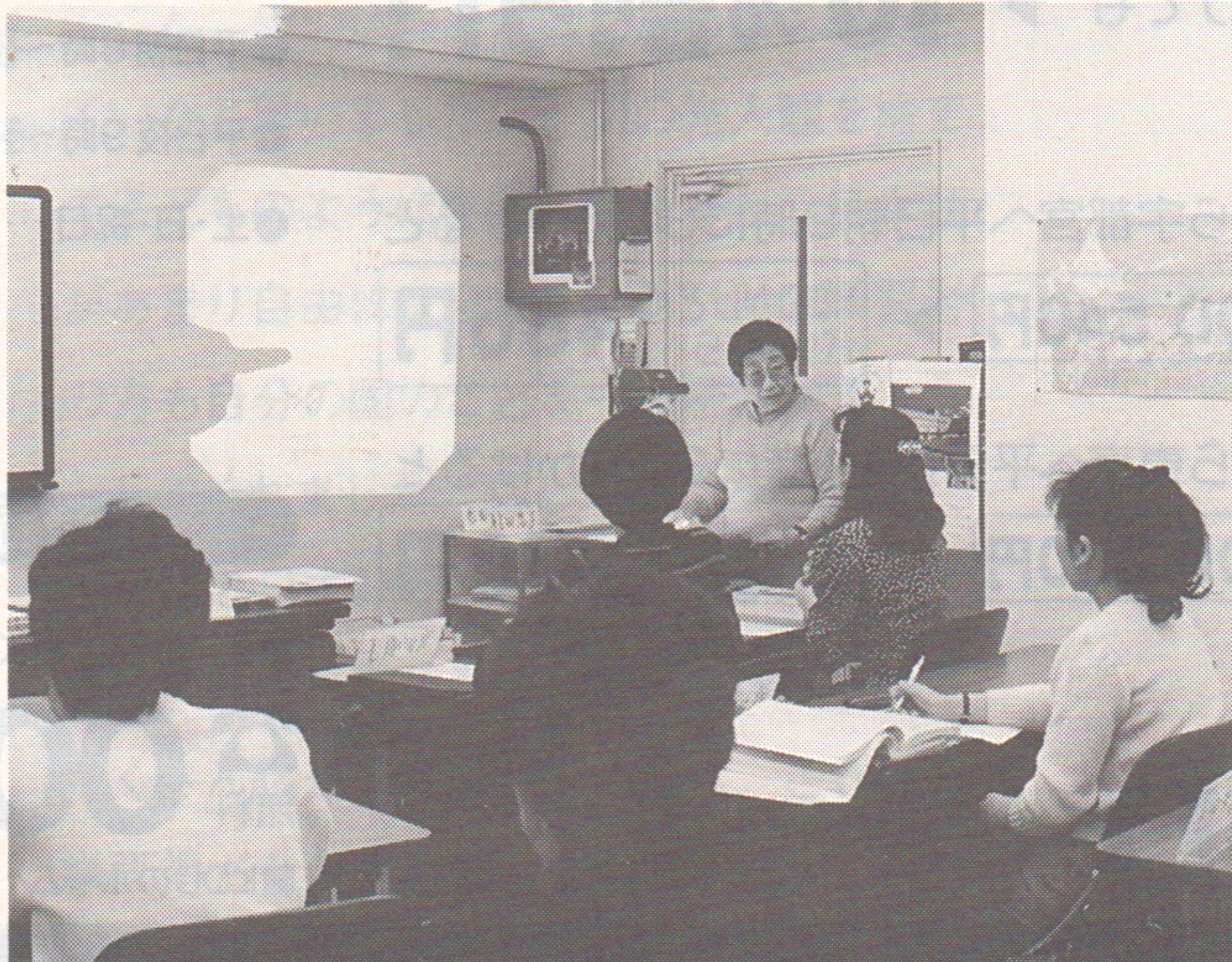
日本で生活する外国人が増加するにつれ、日本語ができないために地域社会からはみ出し、トラブルとなったり精神的な病気になってしまうケースも増加しています。「言葉がわかれば、心が

通じ合える。そのためには、日本語を上手に教える人たちを増やしたい」と有馬先生。

自分自身で直接教えられることのできる人数には限界があるので、自分が持っているノウハウを伝えることでわかりやすく教える人を増やしたい、とのこと。そのため、TNVNのほかにも、新宿文化国際交流財団、目黒ユネスコ協会、国分寺市国際協会などで日本語ボランティアのために日本語教授法を講義しています。

最後に、有馬先生から日本語ボランティアへのアドバイスとしては、①どんな人にも親切に、面倒見よく、理解するまで教えること、②なんらかの手段で、効率よく教えるための工夫・勉強をすること、③自分が会得した知識をひけらかしたり、ひとりよがりにならないこと、④わからないことは先輩に聞いたり、常に勉強して情報を得ること、とのこと。

今後も、「頭と手足が丈夫なうちに、どんどん私の知識やノウハウを活用してほしい」と意欲的な有馬先生。私たちの先輩として、いつまでもお元気で活躍されることを期待しています。



文法と対人関係(1)

「正しい日本語」とは何か

日本大学講師 福田知行

日本語を教えていて、ある特定の母語を話す人々がなぜ同じような間違いをするのか、という疑問を持った経験がある方も多いと思います。

たとえば、中国語を母語とする人はよく「高いの本」「静かの町」のようにイ形容詞やナ形容詞に「の」をつけてから名詞を続けることがあります。中国語では形容詞も名詞もすべて修飾語は「～的」というからだそうです。つまり、「私の本」も「高い本」も「静かな町」も「我的書」「貴的書」「寂静的街道」と「的」がついているのです。

また、韓国・朝鮮語を母語とする人は「…ですよ」「…ですね」をよく使う傾向にありますが、これも韓国・朝鮮語では“丁寧体”に当たる表現が-yo、“感嘆”を表す表現が-neだということと関係があると思われます。

さらに欧米系の言語では「私は…」「あなたは…」のように一人称や二人称の代名詞を多用する傾向にあります。とくに、英語、ドイツ語、フランス語などでは文法的に主語や目的語が必要とされるため、そうした人々は、日本語では文脈から明らかな場合は何も言わないとわかっていても、主語や目的語を言わないと気持ちが悪いのかもしれませんが。

こうした外国人の(文法的)間違い、あるいは不適切な使用法などは、意志の疎通という点ではそれほど問題はないと思います。つまり、言いたいことは大体わかるのです。では何が問題かという、実は、私たちは会話をするときには情報の交換だけではなく、相手の話し方や性格なども同時に判断しています。見方によっては単なる情報よりもずっと大事なそうした性格判断や価値判断と関係があるのが(終)助詞や代名詞なのです。

たとえば、自己紹介のときに「私は福田です」という代わりに「私が福田です」と言ったら、自分の名前を知ってるのは当然のように聞こえ、傲慢な感じを与えるかもしれません。「私は」を何度も繰り返すと自己主張が強いと思われるかもしれません。また、「…よ」「…ね」を多用すると押しつけがましい性格だと思われかねません。逆に、そうした感情を表す言葉を全然使わないと冷たい感じを与えることもあります。

しかし、実際はそうした細かいニュアンスまで日本人は説明できませんし、そこまでわかって話している外国人は非常に少ないだろうと思います。では、どうしたらいいのでしょうか。 (続きは次号に)

市外電話も国際電話も
どちらも割引

KDD かけどくパック

市外電話が割引!

月300円以上のご利用で
いつでも・どこにかけても → **10%割引!**
すべての通話が

●たとえば、東京から宇都宮へ平日朝9時に30分かけると

NTT 800円 ▶ KDD 540円 ▶ KDDかけどくパックなら **486円**

●たとえば、大阪から東京へ平日夜11時に30分かけると

NTT 600円 ▶ KDD 300円 ▶ KDDかけどくパックなら **270円**

国際電話も割引に!

月300円以上のご利用で

- 平日朝8時～夜9時…………… **10%割引!**
- 平日夜9時～翌朝8時……深夜・早朝割引料金に! さらに **25%割引!**
- 土・日・祝日……………1日中が深夜・早朝割引料金に! さらに **25%割引!**

登録料・基本料なし! 申し込むだけ!

■KDDかけどくパックのお問い合わせ・お申し込みは

☎ **0070-712** (毎日午前9時～午後9時/無料)

■KDDのホームページ <http://www.kdd.co.jp/> でもお申し込みいただけます。



日本の常識

Common sense in Japan

第4回 自分のサイズを知っておこう

バッグやアクセサリなど、デザインや素材で選べるものなら、一目で自分の好みかどうかわかるので、買った後に失敗や後悔するといったことは少ないものです。しかし、洋服や靴となるとそうはいきません。もちろん、自分の好みかどうかは見た目で見えますが、着てみて履いてみて、初めて自分の体に合うのか

どうかかわかるのです。一体どのサイズが自分に合うのかがわからず、サイズの違うものを何着も試着した、という経験をした覚えはありませんか？ 時間をもっと有効に使えて、さらに買い物が楽しくなるように、下の表を参考に、自分のサイズをチェックして、失敗しない買い物をしましょう。

【フランス】

女性用 (洋服)	フランス	36	38	40	42	44
	日本	7	9	11	13	15
女性用 (靴)	フランス	35.5	36.5	37.5	38.5	39
	日本	22	23	24	25	26
男性用 (シャツ)	フランス	36	37	38	39	40
	日本	36	37	38	39	40
男性用 (靴)	フランス	38	39	40	41	42
	日本	24	24.5	25	25.5	26

【スペイン】

女性用 (洋服)	スペイン	36	38	40	42	44	46
	日本	7	9	11	13	15	17
女性用 (靴)	スペイン	36	36.5	37	37.5	38	38.5
	日本	22	22.5	23	23.5	24	24.5
男性用 (シャツ)	スペイン	44	46	48	50	52	54
	日本		S		M		L
男性用 (靴)	スペイン	6.5	7	7.5	8	8.5	9.5
	日本	24.5	25	25.5	26	26.5	27

【イギリス】

女性用 (洋服)	イギリス	32	34	36	38	40
	日本	7	9	11	13	15
女性用 (靴)	イギリス	3.5	4.5	5.5	6.5	7.5
	日本	22	23	24	25	26
男性用 (シャツ)	イギリス	14	14.5	15	15.5	16
	日本	36	37	38	39	40
男性用 (靴)	イギリス	4	5	6	6.5	7
	日本	24	24.5	25	25.5	26

【イタリア】

女性用 (洋服)	イタリア	38	40	42	44	46
	日本	7	9	11	13	15
女性用 (靴)	イタリア	35	36	37	38	
	日本	22	23	24	25	
男性用 (シャツ)	イタリア	14	14.5	15	15.5	16
	日本	36	37	38	39	40
男性用 (靴)	イタリア	39	40	41	42	
	日本	24	25	26	27	

【ドイツ】

女性用 (洋服)	ドイツ	34	36	38	40
	日本	7	9	11	13
女性用 (靴)	ドイツ	36	38	40	42
	日本	23	24	25	27
男性用 (シャツ)	ドイツ	46	48~50	52~54	
	日本		S	M	L
男性用 (靴)	ドイツ	36	38	40	42
	日本	23	24	25	27

※これはあくまでも目安にすぎません。メーカー、スタイルなどにより多少異なることがありますので、試着は忘れずに！



香港やシンガポールなどの“買い物天国”と呼ばれるような国々では、輸入が盛んなためにサイズ表記が欧米のままになっている地域もあり、残念ながら世界各国の全比較とまではいきません。表記がない国々で買い物をする際には、近隣諸国のサイズを目安に使っていただければ、と思います。

【アメリカ】

女性用 (洋服)	アメリカ	4	6	8	10	12~14		
	日本	7	9	11	13	15		
女性用 (靴)	アメリカ	4	5	6~7	8~9	10		
	日本	22	23	24	25	26		
男性用 (シャツ)	アメリカ	14	14.5	15	15.5	16	16.5	17
	日本	36	37	38	39	40	41	42
男性用 (靴)	アメリカ	6	6.5	7~7.5	8	8.5	9~9.5	
	日本	24	24.5	25	25.5	26	27	

【中国】

女性用 (洋服)	中国	(コート・スカート)	6	8	10	12	14	16
	中国	(ニット)	32	34	36	38	40	42
	日本		7	9	11	13	15	17
女性用 (靴)	中国		31.5	4	4.5	5	5.5	6
	日本		22	22.5	23	23.5	24	24.5
男性用 (シャツ)	中国(綿)		44	46	48	50		
	(ニット)		36	38	40	42		
	日本		S	M	L	LL		
男性用 (靴)	中国		5	6	7	8	9	
	日本		24.5	25.75	26	26.75	27.5	

【ニュージーランド】

女性用 (洋服)	ニュージーランド	8	10	12	14	16	
	日本	7	9	11	13	15	
女性用 (靴)	ニュージーランド	4	4.5	5	5.5	6	
	日本	21.5	22	22.5	23	23.5	
男性用 (シャツ)	ニュージーランド	SS	S	M	L	XL	
	日本		S	M	L	LL	LLL
男性用 (靴)	ニュージーランド	6	6.5	7	7.5	8	
	日本	24	24.5	25	25.5	26	

NETWORK INFORMATION

日本語ボランティア入門講習会

これから日本語ボランティアを始めたい方のための「日本語ボランティア入門講習会」は、日本語ボランティアに役立つ基礎知識の講座です。初めて日本語ボランティア活動に参加する方は、ぜひ受講してください。どの回からでも受講可能で、全4回を受講された方には修了証をさしあげます。

◆日時

6月14日(月) 午後2～4時
6月28日(月) 午後6～8時
7月12日(月) 午後2～4時
7月26日(月) 午後6～8時
8月9日(月) 午後2～4時
8月23日(月) 午後6～8時

◆テーマ

(6月) 日本語ボランティア入門
(7月) 日本語再発見
(8月) 日本語学習者の現状

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター
学習室
(JR・地下鉄 飯田橋駅下車 徒歩1分)

◆参加費

1回 600円 (TNVN会員は300円)

◆参加申込み

直接、会場へおこしてください。

新年度の会費納入のお願い

TNVNの活動も6年目を迎え、この4月より新年度の活動がスタートしました。会員の皆様には'99年度会費の払い込み用紙を送付しましたが、すでに納入はお済みでしょうか。

TNVNは日本語ボランティア活動をしている団体の民間のネットワークとして、行政等からの支援もなく、会員の会費収入とボランティアスタッフの労力によってその活動が支えられています。どうかご理解の上、ご協力をお願いいたします。

ネットワーク情報交換会のお知らせ

会員相互の交流の場として隔月で開催している「ネットワーク情報交換会」を下記のスケジュールで開催します。この機会に自由に意見や情報を交換して、日頃の活動にお役立てください。

TNVN会員以外の方の参加も歓迎しますので、日本語ボランティアについて知りたい方や活動現場の声を聞きたい方もお気軽にご参加ください。

◆日時/7月16日(金)午後6～8時

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター
会議室

◆テーマ/自主教材の工夫と使い方

◆参加費/無料

◆当日、直接会場へおこしてください。

TNVNへの入会を希望する方は…

TNVNの会員として入会を希望される方は、まずTNVN事務局までTNVN活動・入会案内を請求してください。(活動・入会案内のみを希望する場合は送料として80円切手、ニュースレターと入会・活動案内の場合は90円切手を同封の上、郵便にてお申し込みください)

TNVNの会員は日本語ボランティア活動をしている団体が正会員、日本語ボランティア活動に関心のある個人が協力会員となります。入会される場合は、申し込み用紙に必要事項を記入してTNVN事務局まで郵送またはFAXし、あわせて会費をお振り込みください。会員の方には毎回TNVNニュースレター等を郵送するほか、TNVN主催の講習会等へ会員価格で参加できます。

◆会費/正会員 年会費 3,000円
協力会員 年会費 2,000円

日本語ボランティア相談

日本語ボランティア相談窓口では、日本語ボランティアに関するご相談・ご質問にTNVNのベテランスタッフがおこたえします。お気軽にご利用ください。

◆日時/毎週月曜日 午後2～7時

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター

◆電話でご確認の上、おこしてください。

TEL: 03-3235-1171 (呼出し)

TNVNの活動情報へパソコンでアクセス!

インターネットのTNVN活動情報にアクセスして、日頃の活動にお役立てください。また、TNVNへの要望や意見などもお待ちしています。

<TNVNホームページ>

TNVNの講習会など活動情報や教室ガイドの情報も掲載しています。

◆URL: <http://www.t3.rim.or.jp/~tnvn/>

◆MAIL ID: tnvn@t3.rim.or.jp

※なお、上記のホームページにボランティア募集やイベント参加者募集などの情報掲載をご希望の方は、事務局までご連絡ください。

TNVN事務局の連絡先

TNVN事務局は、原則として毎週月曜日午後2～7時まで東京ボランティア・市民活動センターで活動をしています。TNVNへのお問い合わせ等は、下記までなるべく郵便かFAXをお願いします。

〒162-0823 新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター 気付

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク

●TEL: 03-3235-1171

(呼出し/月曜日午後のみ)

●FAX: 03-3235-0050



「ボランティア日本語教室ガイド」 領布中！

『ボランティア日本語教室ガイド』には、145クラスの活動情報を日本語と英語で掲載。あわせて、外国人のための情報源や相談窓口などのデータも掲載しています。さらに、新たに加入した団体の情報や連絡先等が変更になった団体の情報をまとめた改訂版もプラス。

ご希望の方は、東京ボランティアセンターの窓口へ直接おこしいただくか、郵便振替で料金をお払込みください。入金を確認次第、郵送します。

- ◆領布価格(実費) / 1冊600円
郵送希望の場合は送料込み1000円
- ◆払込み先
郵便振替口座番号 00100-1-719259
(通信欄に『教室ガイド』と記入)
- ◆加入者名
東京日本語ボランティア・ネットワーク

「墨田区国際交流サロン」 のお知らせ

墨田区では外国の方が気軽に参加でき、地域の人々と交流できる場として「国際交流サロン」を開催しています。どなたでも気軽に参加できます。予約の必要はありません。

- ◆日時 / 毎月第2金曜日 19:00～20:45
- ◆参加費 / 無料
- ◆会場 / すみだ生涯学習センター
(墨田区東向島2-38-7)
東武線曳舟駅・東向島駅または京成線曳舟駅下車5分
- ◆問合せ
墨田区国際・文化振興課国際交流係
TEL: 03-5608-6212

MIFA 日本語会話サロン 夜間クラス増設

目黒区国際交流協会では従来の昼のクラスのほかに夜間のクラスが増え、合計4クラスになりました。会話、テキストでの勉強にボランティアがマンツーマンで対応します。予約が必要です。

- ◆日時 / 水曜日 ①10:00～11:15
②13:30～14:45 ③15:00～16:15
木曜日 19:00～20:15
- ◆会場 / MIFA目黒区国際交流協会
(目黒区中央町1-3-2区役所通りビル1F)
- ◆参加費 / 500円(5レッスン分)
ほかに、協会費1000円(登録の際必要)
- ◆申し込み・問合せ / MIFAまで
TEL: 03-3715-4671
FAX: 03-3715-4672

「墨田にほんご21」が ボランティアを募集

水曜日夜クラスのボランティアを募集しています。2ヵ月に1度のミーティング(クラス終了後)に出席できて、長期間継続可能な方を希望します。

- ◆日時 / 毎週水曜日 19:00～20:45
- ◆会場 / 曳舟ボランティアセンター
- ◆申し込み・問合せ
宮本啓子 TEL: 03-5610-5184
上野悦子
E-mail: etsuko@eastmail.com

「ビバ日本語教室」がボランティア・学習者を募集

ビバ日本語教室では、新たに水曜日夜のクラスを開設。それに伴い、ボランティア・学習者を募集しています。

- <水曜日クラス>
- ◆時間 / 18:30～20:00
- ◆会場 / 港区立生涯学習センター
(JR新橋駅 烏森口下車3分)

墨田区主催 『Let's get cooking』 日本の家庭料理を作りましょう！

簡単にできる日本料理をボランティアと一っしょに作ります。

レシピは英語と日本で用意します。予約はいりません。日本料理に関心のある学習者にご紹介ください。

- ◆日時 / 毎月第3火曜日 11:00～14:00
- ◆参加費 / 300円
- ◆会場 / すみだ女性センター
(墨田区押上2-12-7)
東武線業平橋駅、または京成線・都営地下鉄押上駅下車5分
- ◆問合せ
墨田区国際・文化振興課国際交流係
TEL: 03-5608-6212

〈弥生日本語の会〉 ボランティア募集中！

TNVNの会員団体の弥生日本語の会では、日本語ボランティアを募集しています。テキストを使っての学習や日常会話など学習者の希望に添えるように活動しています。活動を継続できる方、一度見学に来てください。

- ◆学習時間 / 毎週火曜日 10:00～12:00
- ◆会場 / 文京区 向丘生涯学習館 2階和室
地下鉄南北線 東大前駅下車 徒歩3分
- ◆申し込み・問合せ / 大久保澄子
TEL: 03-3811-2202

BULLETIN BOARD



「おつかれさま。おそくなってごめんなさい」

数人の女性が各人分担して作業をてきぱきと進めています。まさに女性パワーです。東京ボランティア・市民活動センターの一室をお借りして、TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワークが行う毎週月曜日の事務局活動が始められています。

昨年3月から、定年退職をした男性(私)が日本語ボランティアとして地域で活動するなか、TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワークで運営委員としてお手伝いをするとともに、月曜日の事務局にもお役に立てばと参加するようになりました。ネットワークの役割は何か、どのようにするのか。様子が分からないままの参加でした。

回を重ねるうち、次第にボランティアで支えるTNVNの動きが見えてきました。会社組織での仕事運営とは異なった局面をもって進められています。スタッフのみなさんは地域で実活動をするベテランの日本語ボランティアです。同じ都内と

は言え、長時間をかけて飯田橋まで来ています。団体間の交流や日本語ボランティアに関係する相談・アドバイス、および情報の発信を行っています。

こうした作業はボランティアの基本である無報酬/自主性・自発性/公共性・奉仕活動のなかでもっとも大事な継続性を持ち、細かいところへの気配り・思いやりをもって進められるのが見えてきます。楽しく、元気に、仲良く、無理せず?に、顔にはだまませんが責任感を持った人たちが事務局に集まっています。

日本に来た外国人へ日本語学習の場を紹介、日本での生活に慣れてもらうためのお手伝い、日本語ボランティアをしたいがどうすればいいか…。来訪者や電話に対応し、東京ボランティア・市民活動センターへ相談に来られる人へのサポートもしています。今後も事務局の役割が果たせるよう応援してください。多くの人に支えられ、開かれた事務局でありたいと願います。

梶村 勝利 (TNVN副代表)

地域の日本語ボランティア事情

町田市発

1. 町田市の行政と国際交流

町田市も最近、国際交流関係の活動を活発に推進しています。市のボランティアセンターは昨年初めて日本語ボランティア講習会を実施しました。また、昨年夏に設立された町田国際協会(MIF)も、国際交流パーティー、国際理解講演会、外国語勉強会、外国人生活相談などの活動を実施しています。日本語ボランティア講座も本年度中に実施する予定です。さらに、本年末に完成予定のビル内に「町田市民フォーラム」が設置され、MIF

などの活動拠点となる予定です。

2. 日本語ボランティアが単行本で紹介

この4月に発行されたボランティア活動を紹介する本のなかで、私たちの団体が日本語ボランティアの事例として紹介されました。『わたしたちにもできるこれからのボランティア』(文研出版発行)です。青少年向けにボランティアを解説した本で、全5巻のうちの第4巻『ひろがるボランティアの世界-情報・国際編』で紹介されています。

(床呂 英一/まちだ日本語ボランティアネット)

SPECIAL THANKS

★KDD 国際電信電話(株)様

ニュースレターの印刷にご協力いただきました。

★有馬 俊子 様

快く取材に応じていただきました。

メディアに見る TNVN 情報

◆毎日新聞社 発行『週刊エコノミスト』臨時増刊5月10日号

日本語ボランティアの活動事例の紹介

◆日経事業出版社 発行 日経ライフシリーズ『誰でもできるボランティア』

日本語ボランティアの活動事例の紹介

◆アルク発行『月刊 日本語』'99年6月号 TNVNの活動の紹介

WELCOME! 新入会員のご紹介

◆協力会員(個人)

次山 千恵子、梶村 勝利 (敬称略)

'99年5月25日現在の会員数は、正会員73団体・協力会員90名・賛助会員10です。

編集後記

●TNVNも活動六年目を迎え、多くの方々に編集スタッフとして参加していただき、紙面をリニューアルしてみました。ニュースレターへのご意見・ご要望、投稿など、みなさまからの声をお待ちしています。



発行人/中田 紀子

編集人/前田 恭子

レイアウト/鶴田 環恵